

講義ユニット名	血液		所属科目名	器官・システム病態制御学Ⅱ
講義ユニット 責任者	いちのへ たつお 一戸 辰夫	所属	血液内科 (内線 5858)	
		メール	nohe@hiroshima-u.ac.jp	
講義ユニット コーディネーター	いちのへ たつお 一戸 辰夫	所属	血液内科 (内線 5858)	
		メール	nohe@hiroshima-u.ac.jp	
授業方法	対話的講義形式。スライド呈示に加えて、適宜、学生への質問を行いながら進める。			
概要	造血の仕組み・血球の形態とその異常について理解するとともに分子細胞レベルでの検査法を理解し、代表的な成人血液疾患の診断と治療についての基礎知識を習得する。			
講義ユニットの 到達目標	<p>骨髄の構造を説明できる。</p> <p>造血幹細胞から各血球への分化と成熟の過程を説明できる。</p> <p>主な造血因子（エリスロポエチン、顆粒球コロニー刺激因子<granulocyte-colony stimulating factor <G-CSF>）、トロンボポエチン）を説明できる。</p> <p>脾臓、胸腺、リンパ節、扁桃とPeyer板の構造と機能を説明できる。</p> <p>血漿タンパク質の種類と機能を説明できる。</p> <p>赤血球とヘモグロビンの構造と機能を説明できる。</p> <p>白血球の種類と機能を説明できる。</p> <p>血小板の機能と止血や凝固・線溶の機序を説明できる。</p> <p>黄疸の原因と病態生理を説明できる。</p> <p>黄疸をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。</p> <p>黄疸がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。</p> <p>貧血の原因と病態生理を説明できる。</p> <p>貧血をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。</p> <p>貧血がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。</p> <p>出血傾向について概説できる。</p> <p>末梢血の血球数の基準値とその変化の意義を説明できる。</p> <p>骨髄検査（骨髄穿刺、骨髄生検）を説明できる。</p> <p>血漿タンパク質の基準値とその変化の意義を説明できる。</p> <p>貧血を分類し、鑑別に有用な検査を列挙できる。</p> <p>鉄欠乏性貧血、二次性貧血の病因、病態、診断と治療を説明できる。</p> <p>再生不良性貧血・夜間発作性血色素尿症(paroxysmal nocturnal hemoglobinuria <PNH>)の病因、病態、診断、治療と予後を説明できる。</p> <p>溶血性貧血の病因、病態、診断と治療を説明できる。</p> <p>巨赤芽球性貧血の病因、病態、診断と治療を説明できる。</p> <p>出血傾向の病因、病態、症候と診断を説明できる。</p> <p>免疫性血小板減少性紫斑病(immune thrombocytopenic purpura <ITP>)の病態、症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>血友病の病態、症候、診断、治療と遺伝形式を説明できる。</p> <p>播種性血管内凝固(disseminated intravascular coagulation <DIC>)の基礎疾患、病態、診断と治療を説明できる。</p> <p>溶血性尿毒症症候群(hemolytic-uremic syndrome <HUS>)の基礎疾患、病態、診断と治療を説明できる。</p> <p>IgA血管炎(Schönlein-Henoch紫斑病)を概説できる。</p> <p>血栓性血小板減少性紫斑病(thrombotic thrombocytopenic purpura <TTP>)を概説できる。</p> <p>脾腫をきたす疾患を列挙し、鑑別の要点を説明できる。</p> <p>急性白血病の病態、症候、病理所見、治療と予後を説明できる。</p> <p>急性白血病のFrench-American-British <FAB>分類、WHO分類を概説できる。</p> <p>慢性骨髄性白血病の病態、症候、病理所見、治療と予後を説明できる。</p> <p>骨髄異形成症候群(myelodysplastic syndromes <MDS>)の臨床像と病理所見を説明できる。</p>			

	<p>成人T細胞白血病の病因、疫学、臨床所見、病理所見を説明できる。</p> <p>小児白血病と成人白血病の違いを説明できる。</p> <p>真性赤血球増加症・本態性血小板血症、骨髄線維症の病因、病態、診断と治療を説明できる。</p> <p>悪性リンパ腫の分類を概説し、病態、症候、病理所見、治療と予後を説明できる。</p> <p>多発性骨髄腫の病態、症候、診断、治療と予後を説明できる。</p> <p>臓器移植、造血幹細胞移植の種類と適応を説明できる。</p> <p>移植と組織適合性の関係を説明できる。</p> <p>移植後の拒絶反応、移植片対宿主病の病態生理と発症時の対応を説明できる。</p> <p>免疫抑制薬の種類、適応と副作用を説明できる。</p>
講義日程	別紙日程表を参照のこと
出席の取り扱い	出席は、試験の受験要件には含めない。
評価項目	到達目標の達成度 (基本的理解と知識の応用)
評価法	MCQ形式にて試験を行う。 本試験における合格基準は60点とする。
推奨参考書	<p>【購入を推奨する参考書】</p> <p>Principle and Practice 「血液・造血系・リンパ系」 医学生・レジデントのための 必修エッセンス 文光堂 7500円</p> <p>新版 臨床免疫学 第3版 講談社 5400円</p>